第２回三重県の観光振興のあり方検討懇話会 概要

日　時：平成 22 年 9 月 9 日（木）15:30～17:30
場　所：勤労者福祉会館 2Ｆ第 2 会議室

（議事内容）

これからの観光振興のあり方についての意見交換

（主な意見）

○ 「条例の前文」には、「三重県は、かつて伊勢詣など、日本人の旅の原点であった。」など、三重県固有の特性を盛り込んではどうか。

○ 「条例の目的」には、２つの方向性があると思う。１つ目は、県民を主役に、地域づくりを前面に出して観光振興を進めるという方向性。２つ目は、民間のプロフェッショナルな部分を前面に出し、質の高いサービスを提供するといった観光産業に重きを置く方向性である。両方必要で、バランスが重要である。

○ 「観光文化」という言葉、「観光を通じて新しい文化を発信する」という考え方を、「基本理念」に盛り込んではどうか。

○ 「多様な主体の責務・役割」は、県、県民、観光事業者、観光関係団体という順番でよいのか。県民が主役ならば、県民の役割を最初に規定してはどうか。反対に、観光産業を第一に考えるのであれば、観光事業者から規定してもよいと思う。

○ また、県の役割で重要なのは、横串機能である。観光は様々な分野との調整がある。他部局との関係など、観光局が横串でやるべき役割は大きい。

○ 近年、観光に熱心な団体は、観光協会とは限らない。商工会議所、ＪＡ、漁協等も観光と関係する。しかし、それらの団体は、自分たちを「観光関係団体」とは思っていない。「観光」という言葉を削除し、「関係団体」でもよいのでないか。

○ 「県民の観光行動の促進」は、重要な視点である。豊かな旅行をする三重県民の存在が、よい観光地づくりにつながる。

○ 「その他必要事項」は、「その他」というより、むしろ、三重県の観光推進システムそのものである。

○ 県民主導だからと言って、すべてを任せてしまっては駄目。例えば、中国の情報は、県を除けば、一部の観光事業者しか知らない。県ぐらいのパワーがないと、情報を仕入れることはできない。

○ 懇話会では、普遍的なあり方を議論すべきである。条例の前文には、「なぜ観光振興しないといけないのか」を記載してほしい。

○ 官は行うことは政策、民間が行うことはビジネス。この辺りを、これまでは曖昧にやってきた。役割分担のあり方を条例で提示してあげることが重要だと思う。

○ 役割分担の前に、まず何を行うべきかを議論することが必要である。やるべきことが明確になっていないのに、主体的に誰が担うかを議論することはできない。

○ 観光振興プランを策定した際、当時の委員から「県民運動を生み出すような動きにしたい。」との発言があった。条例に、県民運動を規定している県が幾つかある。住民を巻き込んだやり方だと思う。

○ 誰が何を担当するのかが見えるとよい。フロー図等で整理すれば、はっきりするのではないか。

○ 「責務・役割」に市町の記載がない。市町の役割を明確化していただきたい。

○ 県には、情報発信や教育等、地域に刺激を与えてほしい。役割に明記してほしい。

○ 観光消費は地元の産業で受け入れる、それが地元での安定した雇用につながる、地元のために働くことが生き甲斐につながる、こうした流れを念頭に置き、「雇用」についても言及すべきではないか。

○ 今後、観光協会が公益法人化を検討するにあたり、協会同士の横の連携が必要となる。横の連携がとれる戦略や施策も考えてほしい。
○ 伊勢志摩や熊野古道だけが強調されると、他の地域に住む人は「自分たちのことは何も考えてくれない。」と思ってしまう。

○ 三重県は観光立県をめざすんだ！将来にわたり観光を産業の大きな柱の一つにしていくんだ！という意気込みを、条例に盛り込むことが必要である。
○ リーダーシップに関しては、官の動きが大事で、民だけでは無理である。まずは大きな旗を官が立てることが大事である。

○ ビジョンの提示が必要である。それを基に、三重県がリーダーシップを発揮できるような提言を、盛り込んでいくべきである。三重県の観光の品質を高めたい。

○ 県が制定する条例であるのだから、やはりリーダーは県だと思う。
○ 国の役割を規定できないのか。国との協力関係を盛り込んではどうか。
○ 資料では、県民の役割は、「観光に対する理解と関心を深める」と記載されている。「対する」という言葉は、自分と観光が別物となっているということ。観光に携わる人のほとんどは、自分たちを観光資源と思っている。
○ 普段旅行しない県民に、「旅の素敵さ」を伝えることは、地域の誇りの醸成にも役立つと思う。

○ 官民の役割分担では、県に強く期待する意見が多かった。しかし、お客様の前に出るのは県ではない。県が、観光産業の一部を担ったとしても、観光産業の中心ではない。県の役割はビジョンを作ること。また、計画を策定することである。

○ ライフスタイルに憧れて観光する人が増えている。県内には、海女や漁師など、特別な技能を有し、ライフスタイルを背景に持つ人が多い。それらを発信できるとよい。

○ 全国初という意味では、例えば「観光品質基準」などはどうか。県内での宿泊や体験について、これだけの基準を設けている、ということを、あらかじめお客様に明示し、評価していただく、こうした仕組みは三重県の柱となるのではないか。

○ 懇話会で議論するのは、戦略レベルの話であって、戦術レベルの話ではない。戦術は基本計画やアクションプランに反映すればよい。

○ 観光戦略とは世界戦略である。世界中にある観光地の中から選択されるのであるから、独自性、個性、地域性を打ち出すのは当たり前の話である。三重県には「人」が存在し、それが魅力であるという意見が出されていた。そうしたテーマやコンセプトを出すと、独自性や三重県らしさにつながる。

○ 県内には、大学が７つある。大学との関わりも必要だと思う。

○ 今の時代、観光が地域経済を下支えするという話は当たり前で、目新しさはない。むしろ、ライフスタイル、顧客満足、価値等を提案していくことが、新鮮である。

○ 人は、歴史や文化ばかりを好んで訪れるわけではないので、面的な開発をしてアミューズメントの要素を盛り込むなど、遊び心も必要である。

○ 集客との兼ね合いを上手にやらないといけない。

○ 相対する意見が出たが、相乗効果を高めることが大事。様々なライフスタイルや自然、文化を誘客につなげ、一番上手く共存させた県になればよいのではないか。

○ 三重県は５つの国から成り立ってきた。地域の違いもＰＲしてはどうか。観光振興プランにおいても、地域戦略が規定されている。

○ インバウンドは数を追ってはいけない。中国でも個人旅行化が進むことを考えると、よいものを提供し、また三重県に来てもらいたいという戦略が必要である。

以　上